



## ダイオキシン問題に関する意見・提言

### (1) 専門家

ダイオキシンは、発がん性や環境ホルモン作用など、私たちの健康への様々な悪影響を有する物質であることが判明しています。

そのため、これまで国や各自治体においても、緊急を要する重要な行政課題として、環境調査やごみ焼却施設における発生抑制対策など、多方面からの対策を講じてきています。

しかし、これらの対策を進めていくためには、国や県、市町村といった行政機関、また産業界での取組はもとより、県民の皆さんによる、ものを大切に暮らし、ごみの分別やリサイクルの実践による

廃棄物の減量化などの取組が非常に大切となっています。調査によって高い数値が出る場合については、もちろん、原因を究明し、避けることが重要ですが、ダイオキシンは長期間の摂取が問題ですので、日常生活における対策が効果を発揮すると考えられています。食物についても、個々のデータを気にするより、栄養のバランスに気を配ればよいのではないのでしょうか。正しい情報により、ダイオキシンを恐れすぎることがないよう、また、恐れなさすぎることにもならないよう、正しく理解していくことが大切です。

### (2) 消費者団体

地方自治体に望みたいのは、もっとコミュニケーションの工夫をしてほしいということです。「記者発表すれば終わり」というのではなく、もっと説明を詳しく行ってほしい。例えば、ダイオキシン類の数値だけ列挙されても、私たちの生活感覚とはかけ離れたものでしかありません。私たちにとっては、普通に生活している中で、自分たちがどのくらい汚染されているのかということが一番の関心事です。また、とかく環境情報の類は、異常値だけがマスコミに取り上げられ、それが住民の不安感を煽ることになりがちです。よいデータもきちんと伝わるように公表されるべきであり、そういう意味で今回のレポートのように全体像がわかるものは歓迎できます。

一方、データが公表されても、それを読み取るの

はとても難しいです。データやリスクについてわかりやすく解説してくれる人（アドバイザー、コメンテーター）の必要性を強く感じます。企業のOBの方など、専門知識のある人材の養成をお願いいたします。

なお、最近は「何でもインターネット」の世の中ですが、まだ電話やテレビのように皆が利用しているというわけではないのですから、いろいろな情報提供の工夫を考えてほしいと思います。

最近は、企業の情報公開も環境報告書などで積極的に取り組まれるようになりましたが、まだまだわかりづらく、また量も多すぎてとても読みこなせません。企業の皆さんには、市民にわかるような情報提供の工夫をお願いいたします。

### (3) その他（市町村の廃棄物担当者）

市民の皆様には、分別収集や地域の資源回収など、種々御苦労をおかけしていますが、市町村としては、一般廃棄物を排出する事業者の皆様も含めて、より一層の御努力をお願いしたいと思います。廃棄物の減量化・資源化を促進し、循環型社会への第一歩として、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法といった新たな法制度が整備されつつありますが、資

源循環型社会づくりのためには多くの費用と労力が必要であります。新たな法制度に対して行政機関や産業界も努力を尽くしてまいります。皆様の多大な御協力が不可欠でありますので、御理解をいただき、皆で新しい社会づくりに向けて取組を進めてまいります。

#### (4) 引地川水系ダイオキシン汚染事件の際に県によせられた質問や意見

事件が判明した直後に、県では総合相談窓口として専用電話を設置し、県民からの相談に対応しました。その結果、平成12年9月末までの半年間に約250件の相談がありました。そのいくつかを次に紹介します（→は当時対応した内容です）。

Q 引地川の河口付近でサーフィンを行っています。サーファーは安全かどうか、どう判断するのですか。

→ 2km程度上流の富士見橋のダイオキシン類濃度は最大16pg-TEQ/Lであり、仮にこの水を1リットル飲んだとしても、体内への摂取量は約0.3pg-TEQ/日・kg（体重50kgの人の場合）となり、これに日本人の平均的な摂取量2.1pg-TEQ/日・kgを加えても、TDIの4pg-TEQ/日・kgを十分下回ります。河口付近の水はこれよりずっと低濃度なので、心配ありません。

Q 明日、船で釣りに行きますが、釣った魚を食べても大丈夫でしょうか。

→ 水質、底質、魚介類の測定結果から見て、海の魚は問題ないと考えられます。

Q 水道水は大丈夫ですか。

→ 汚染された水は飲み水として使われておりませんので、御心配なく。

Q 近くの海岸で採れたワカメは安全ですか。

→ ワカメの分析は行っていませんが、海水中のダイオキシン類濃度は基準以下であり、またワカメのように脂肪が含まれていないものにはダイオキシン類は蓄積しにくいと言われておりますので、ワカメは問題ないと考えられます。

Q 原因となった工場の近隣に住んでいます。母乳で子どもを育てているが、心配です。相談できるところが知りたい。

→ 近隣に住んでいるだけでは、今回の問題となった排水に起因するダイオキシンを体に取り込んでいることは考えにくいです。大気については、他の地域の汚染状況とあまり変わりません。いずれにしても、保健所でも相談を受けていますので、御相談なさってみてください。

#### (5) 平成13年度版によせられた御意見・御質問

多数の御意見・御感想をいただき、御協力ありがとうございました。今回、掲載させていただいた御意見以外のものはできるだけ平成14年度版に反映

させていただきました。以下に、御質問に対する回答と御意見を御紹介いたします。

##### ○ 御質問

Q ダイオキシン量を”ppm”で表示しているものを見たことがありますが、間違いですか。

→ ”ppm”は濃度の表示ですが、ダイオキシン類の場合、一般的にはTEQを付けた換算値で、測定した異性体の総量を表示します。異性体濃度の総量を換算せずに表示する場合には、”ppm”で表示していたのだと考えます。なお、1ppmlは水1%に1mgの物質が含まれたときの濃度ですので、ダイオキシン量としてはかなり高濃度のものです。

##### ○ 御意見

● 廃棄物の発生抑制は業者の自主管理では進まない。焼却炉で発生するのだから焼却量を減らすことを考えるべきだ。技術による対策はごみをいくら出してもかまわないと思わせる。

(40歳代、NGO関連)

● 発生源の70%が廃棄物の焼却によるものであることは分かるが、これは総論のため具体的行動に結びつかないと思う。廃棄物中のダイオキシンの発生量の多い品名を公表してほしい。

(50歳代、企業環境担当者)

● 環境悪化が少しずつでも進んでいることにおそれを感じる。

(60歳代、県内在住)

● この現状をよく認識し、発生源の対策に活かすべきであると思う。

(60歳代、県内在住)

今後ともよりよいレポートづくりをめざしていきたいと考えておりますので、御意見・御感想及び御質問をいただきたいと思っております。